

## 【巻頭言】

会長 神澤 良明(43 回生)

新年を迎え、皆様には益々ご健勝のことと謹んでお慶び申し上げます。あわせて日頃は学友会にご理解とご協力を賜り感謝いたします。

さて、私は平成 23 年 5 月に会長職に就任しました。会長としての役目の一つに卒業式、入学式の祝辞があります。大学が学友会に厳粛で華やかな式典で祝辞を述べるという荣誉ある機会を与えていただいていることに感謝するのですが、これが私にとって非常に困ったものでした。



卒業生には先輩として<sup>はなむけ</sup> 贖の言葉、入学生に

はこれからの勉学の励みになる言葉をかけたいと考えるがなかなかそう簡単に相応しい言葉が浮かんでできません。私が人に感動を与えられるような話をできる訳がないと割り切って、学友会をよりよく知ってもらうために学友会の伝統(歴史)を紹介し、贖の言葉とさせてもらっています。

私自身が学友会の沿革など学友会について知らないことが多かったです。この役に就いてから山田勝彦先生をはじめとする編集委員会でもまとめられた『島津学園七十年史— 診療放射線技師教育のあゆみ—』を読ませてもらったことが非常に勉強になりました。

初めに感動したのは「建学の精神」であります。これは島津レントゲン技術講習所より現在に至るまで一貫した根本理念であります。本学の「建学の精神」は「レントゲン学に関する技術を教授するとともに、品性を陶冶し有為の技術者を養成する」とあり、言葉を換えますなら「人間としての品格を磨き、技術的能力のある、医療界に役に立つ技術者を養成する」ということでしょう。これは単にX線取り扱い技術を習得するばかりでなく、人格形成にまで踏み込んでいる点が極めて素晴らしいと感じています。

卒業式、入学式の祝辞にはこの成句「建学の精神」をよく使わせてもらっています。

これは私自身に贈る言葉といってもいいでしょう。人は生きている限り常に人格向上に努め、社会で恥ずかしくない生き方をしなければならないと常に考えています。職業人としては最高の技術を社会に還元することが使命だとも思っています。

学友会発会に際して初代福田所長は、「本校は昔より、学生は全国各地より集まり、少人数で共に勉強し、親密になったにも拘わらず、卒業後、漠然と別れることなく、卒業後もますます親交を続け、相互の動静を知り、お互いの研究成果を知り合う機関を設けようと、第 1 回卒業生のみんなの熱意により学友会が生まれました。会の構成は、生徒数の少ない学校でもありますし、卒業生だけではなく、在学生も一緒になった会とし、職員も共に会の活動に参加して、家庭的な雰囲気をたもちながらお互いの親密さをいつまでも失いたくない」とし、自らが会長を務めました。その後もこの精神は今日まで引き継がれています。

母校の歴史を顧みますと、母校元校長滝内政治郎先生は日本放射線技術学会の創立にもご努力され、加えて滝内校長は「日本エックス線技師会」(現：日本診療放射線技師会)設立にもご尽力され、初代会長に就任。技師法制定に大いに貢献されました。

このように本学は放射線技術界のパイオニア的存在であり、常にこの業界をリードしてきました。我々学友は常にこのことに誇りを持ち、この世界のリーダーであり続けなければならないと思っています。リーダーであり続けるためには、さらなる向上に努めなければならないのだと改めて感じます。学友諸氏のさらなる飛躍を望んでいます。



以上